



一を聞いて十をやる

校長 藤森克彦

ほんの2ヶ月前、新型コロナウイルスの状況が落ち着いていたのが嘘のように、こここのところの感染状況の拡大が勢いを見せています。連日のように、保護者メールにて本校児童の感染状況についてその都度お知らせしておりますが、一日も早く収まり、みんなで思い切り学校行事や集団活動ができたらと願うばかりです。

さて、先月は一休さんのトラ退治の話を書きましたが、教室で読んであげたい「お話し」つながりで、今回はユダヤの民話を紹介します。

それはそれは遠い外国のお話です。お米や麦、豆などの穀物を売り買いする商人のもとで、モイシュという名前の若い男が働いていました。賃金は週に2ズウォッティ（ポーランドのお金の単位）でした。長いことそこで働いていて経験もあるモイシュは、あるとき「自分の賃金はなぜこんなに少ないのでしょうか。もう一人のモイシュ（同じ名前の若い男）が週に6ズウォッティもらっているのに、なぜ、自分は2ズウォッティなんですか」と聞きました。主人は「まあ、待ちなさい。そのうち理由を教えてあげよう」と答えました。

数日後、商人の家の下の道を、10台ばかりの荷馬車が列を組んで通りかかりました。主人は急いで2ズウォッティのモイシュを呼んで、「道に下りて行って、何を運んでいるか聞いてきなさい」と命じました。モイシュは道に下り、戻って主人に報告しました。「トウモロコシを運んでいるそうです」。主人は「どこにトウモロコシを運んでいるか聞いてきなさい」。モイシュはまた道に下りて荷馬車までかけていき、しばらくして戻ってきました。「トウモロコシを市場に運んでいるようです」と報告しました。すると主人は「急いで下りて、誰に頼まれてトウモロコシを運んでいるか聞いてきなさい」と指示。荷馬車は村はずれに差しかかっており、モイシュは懸命に走らなければなりません。それでもモイシュは走って戻ってくるなり主人に言いました。「隣の町長さんに頼まれた荷物だそうです」と。「じゃあ、トウモロコシの値段を聞いてきなさい」。モイシュは荷馬車に追いつこうと馬に飛び乗って行きました。戻ってトウモロコシの値段を伝えると、主人は「わかった。そこで待っていないさい」と言いました。

主人はもう一人のモイシュ、つまり6ズウォッティのモイシュを呼んで言いました。「道に下りて行って、さっき通った荷馬車の商人たちの様子を見てきてくれ」。6ズウォッティのモイシュは、馬にまたがって荷馬車を追いました。少しして、モイシュは戻ってきて報告しました。「あの人たちは、隣の町長さんに頼まれて、トウモロコシを市場に運んでいる商人たちでした。そこで、売値を聞いて、すぐさま『それより高い値段で買う』と申し出ましたら、『重い荷物を運ぶのに疲れたので、うちの倉庫に荷を下ろす』と決めてくれました。今こちらに向かっています」。主人は、待たせておいた2ズウォッティのモイシュに言いました。「もう一人のモイシュとあなたの賃金が違う理由がわかっただろう」と。

この話から、「一を聞いて十を知る」のことわざが頭に浮かびます。物事の一端を聞いてだけで全容を理解できる力があるたえですが、6ズウォッティのモイシュは「一を聞いて十をやる」若者でした。2ズウォッティのモイシュとの差は、主人から「～聞いてきなさい」という指示を受けたとき、「主人はどうしてそれが知りたいのか」を想像できるかどうかの違いでした。

ある会社の人事部で新人社員を調査した結果、いわゆる「使える人材」に共通していることの一つに、子どもころに親のお手伝い経験が一つの要因ではないかという話も聞きます。お手伝いを通して任された仕事の過程で、コミュニケーションする力、段取りする力、計画する力、問題解決する力、最後までやり遂げる力などが身に付くのではないのでしょうか。学校の授業においても、「どうしてだろう、難しいけれど自分たちで協力して解決していきたい」と子どもたちが主体的に問題解決していく学習も欠かせません。コロナ禍で教育活動が制限される中ですが、先行き不透明な社会に生き抜くための力をどう身に付けていくのか、これからも考え続けていきます。

はじめての書き初め

1年担任： 難波 淑子

「新年の決意を書き書いて表す」日本に昔から伝わってきた大切な文化です。3学期のスタートにあたり、1年生にとって初めての書き初め大会を行いました。間違えないように丁寧に書くことは、集中する力を育てます。練習を始めたころは、一マス空けるのを忘れて書き進めたり、形良い字を書くことが難しかったりする子もいました。冬休みが終わって書いた字は、伸び伸びと大きなよい字で書かれていて、ご家庭での練習の積み重ねを感じました。ありがとうございました。

残念ながら保護者の皆さまに見ていただくことはできませんでしたが、持ち帰りましたら、ご家庭に飾っていただければ嬉しいです。



あしたへつなぐ 自分たんけん

2年担任： 岸田 淳生

2年生は生活科でこれまでの成長を振り返り、自分のことや今まで支えてくれた人たちについて考える学習に取り組んでいます。

子どもたちは赤ちゃんの頃や幼稚園・保育園の頃の写真、保護者の方へのインタビューを通して自分が大きくなったことや自分でできるようになったことが増えたことを感じています。小さい時の写真を友達同士で見せ合ったり、その時のエピソードを教え合ったりしているとき、とても嬉しそうなお表情をしているのを見ると、家族や保育園・幼稚園、友達などたくさんの人たちと良い関わりをもちながら成長してきたのだと感じます。そういった人たちへの感謝の気持ちを持ち、これからの自分の成長を楽しみにできるように学習を進めていきます。



CAPプログラム

3年担任： 村上 剛

CAPプログラムとは、いじめや誘拐、性暴力などの様々な暴力から自分を守る方法を学ぶ参加体験型プログラムのことです。嫌なことや怖いことをされそうになった時に、「何ができるか」を考えました。

「お家の人から今日から『ご飯を食べさせません』と言ったらどういう気持ちになりますか」から授業が始まりました。やはり悲しい気持ちになるし、安心して生活できません。『今日からあなたはわたしのかばん持ち』と友達に命令されたら、それは自由ではないですし、自分への自信はなくなっていきます。

これらのように、事例を演じてもらい、対処法を考えるとこの活動から、「安心」「自信」「自由」の3つのキーワードについて学びました。これは学校生活だけでなく、これからの社会でも大切なことです。

学校でも「全員が安心して過ごせる教室」を目指して、学んだことを生かしていきたいです。



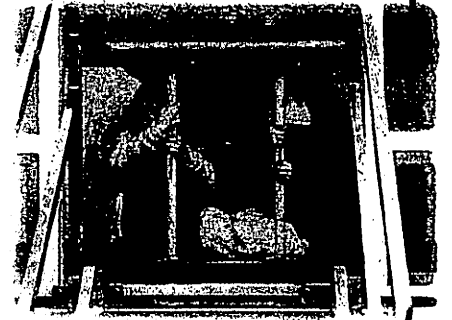
起震車体験

4年担任： 山本 健

阪神淡路大震災から27年目にあたる1月17日に避難訓練が行われました。地震の後、火災が発生したという想定で全校児童が校庭に避難しました。全校での避難訓練に続いて、4年生は「起震車体験学習」を行いました。

南門の近くに止められた起震車に数名ずつ乗り込み、震度6強の揺れを体験しました。体が上下に飛び跳ねるほどの揺れに、机の脚を握って耐えながら、強い地震が起きたときにどのようにして自分の身を守ったらよいかを考えることができました。

近い将来、地震は必ずやってきます。その時に慌てることのないように、普段から心の準備をし、必要なものを備えておいたり、安否確認の方法などを家族で話し合ったりしておくことが大切だと思います。



6年生の「0学期」

5年担任： 小池 絢子

6年生の卒業が近付き、5年生もいよいよ最高学年になる準備を本格的にすすめていく時期となりました。3学期からは、委員会活動で委員長や副委員長の役割を5年生が6年生から引き継ぎます。

6年生の0学期とも言われるように、今は「最高学年になる自覚」を形成する大事な時期です。6年生のよいところをどんどん吸収し、学校をよりよくしていこうと向上心をもって活動できる最高学年になってほしいと思います。また、今月予定されているフレンドタイムでは、6年生に感謝の気持ちを伝え、喜んでもらえるような時間にするために、5年生が中心となり準備を進めていきます。人を動かすことの難しさ、見通しをもつことの大変さ等の壁にぶつかることがあっても、一つ一つの経験を成長の糧として力強く成長してほしいと思います。



卒業までのカウントダウン

6年担任： 中村 香織

6年生は、残り約2ヶ月の小学校生活となりました。残された日数の中で、学習のまとめ、クラブや委員会、フレンドタイムの引き継ぎ、お世話になった方への感謝を伝える取り組み、卒業式の練習等ありますが、一つ一つ思いを込めて取り組んでいきたいと思っています。

その中の一つに、校旗の引き継ぎがあります。昨年度の6年生よりバトンを受け継ぎ、1年間、校旗の掲揚、降納を続けてきました。朝、職員室に校旗を取りに来る6年生が、「失礼します。6年〇組 〇〇です。校旗を取りに来ました」とさわやかに挨拶し、誇りをもって活動する姿に、すがすがしさを覚えます。昨年度の6年生から引き継いだ、本校の素晴らしい伝統が今後も続いていくよう、次の6年生へ「つないで」いきます。3月1日まで6年生が担当し、2日に引き継ぎ式を行い、5年生が担当します。

限られた行事の中ですが、残りの6年生の活躍を応援してほしいと思います。



年間重点生活目標「大一ABCを身に付けよう」
 今月の生活目標
 生活のめあて 静かに歩きましょう
 保健のめあて うがい・手洗いをしましょう
 給食のめあて 食事のマナーを考えて食べましょう



2月の行事予定

日付	曜	主な行事	日付	曜	主な行事
1	火	放送朝会	15	火	放送朝会
2	水	フレンドタイム⑧ (1~5年)	16	水	品川教育の日
3	木		17	木	セーフティ教室 (6年)
4	金	委員会⑩	18	金	児童集会 クラブ⑨ (最終)
5	土	土曜授業 (参観なし) 安全指導	19	土	土曜授業 市民科授業地区公開講座 (2・3h) 二分の一成人式 (4年)
6	日		20	日	
7	月	消防署見学 ZOOM (3年)	21	月	
8	火	放送朝会 入学説明会 (14:00~)	22	火	放送朝会
9	水	午前授業	23	水	天皇誕生日
10	木	保健集会	24	木	
11	金	建国記念の日	25	金	音楽朝会 委員会⑪ (最終)
12	土		26	土	
13	日		27	日	
14	月	出前選挙 (6年) 3・4h	28	月	フレンドタイム⑧ (6年生お別れ会) すくすくスクール (最終) 定期考査 (6年)

今月の
避難訓練は
予告なしで
行います。

生活指導部より～余裕をもって行動する～

生活指導部： 武田 慶帆

2月の生活のめあては、「うがい・手洗いをしましょう」です。冬の空気が乾燥しているこの時期、校内の各教室では、加湿器をつけて乾燥を防いでいます。また、常に窓を開けて空気の入替えをしています。また、中休みや昼休みの時間が終了し、校庭から戻ってくる子どもたちに、うがい・手洗いをし、水を飲むように必ず言葉を掛けています。

昨年から感染症予防に気を付けていたため、多くの子どもたちが予防の習慣が身に付いていることと思います。しかし、授業が始まる前に言葉を掛けると、うっかり手洗いを忘れていたという様子が見られます。今一度意識してうがい・手洗いをしていく習慣を身に付けましょう。また、手洗いをした後にハンカチを持っていない子も見かけます。ハンカチを身に付けることは、衛生上大切なことです。洗濯したハンカチを毎日忘れずに持ってきてましょう。ご家庭でも、うがい・手洗い、ならびに、洗濯をしたハンカチの準備をするよう、お子さんに声かけをお願いいたします。

リレーコラム「かかわる、創る」

4年担任： 山本 健

教職に就いて、多くの学級を担当してきました。同じ学年、同じ教材の授業を何回となく繰り返してきました。しかし、一つとして同じ授業はありません。それは、友に学習した子どもたちが同じではないからです。このことは、4年松組と竹組で、同じ授業案で授業をしても、違う反応が返ってくることを想像していただければお分かりいただけると思います。学校の教室で対面で授業をする値打ちはここにあります。その場にいた人でなければ味わえない臨場感。友達と一緒に創り上げた「知の財産」。知識を伝達することはリモートでも可能です。しかし、友達とのかかわりを通して知を創る体験ができることは、そこに参加した人だけが味わえる楽しみだと思えます。